

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1592500043		
法人名	医療法人 愛広会		
事業所名	グループホームどっこんの家		
所在地	新潟県胎内市十二天91番地1		
自己評価作成日	平成23年4月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

調理作業(皮むき等刻み方)と茶碗洗いは入居者と一緒に行い、茶碗拭きは入居者主体で行なっています。また、洗濯たみをする入居者と一人ひとり役割が決まっており、なかなかお手伝いの出来ない方は、労いの言葉をかけたりと、支えあって生活しています。年に1度、個別外出レクを行ない1対1で入居者様の希望の場所へ出かけたり、近隣のグループホームさんと入居者を含め交流会を行なったりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームどっこんの家」には小規模多機能型居宅介護事業所とヘルパーステーションが併設されており、防災や委員会活動を中心に事業所間の連携が良くとられている。また、敷地内には同一法人が運営する介護老人保健施設や、関連法人の保育園が隣接しており、互いに交流が活発である。

管理者の「まずはやってみよう」という考え方に象徴されるように、職員のアイデアを積極的に汲み取る姿勢が見られる。職員は、日々利用者の生活に楽しみを見つけるためのアンテナを張り、職員のペースではなく利用者のペースに合わせた対応を心がけている。また、年に1回、利用者と担当職員とが1日を1対1で関わり、利用者の行きたい場所やしたいこと等を実現する機会を設けるなど、真に利用者の思いに立った運営を行おうという姿勢が伝わる。

開設から5年目を迎えたグループホームであるが、現状に満足することなく日々課題に前向きに取り組む、着実に改善を積み上げてきており、今後も、利用者が地域の中で安心して、「明るく楽しい生活を(職員と)共に過ごせる」というような支援が期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で自分たちの思いを話し合い、温かさがあり、地域との関わりを大切にしたい独自の理念を作り上げている。【笑顔と温かさにあふれる明るく楽しい生活を共に過ごし地域との関わりを大切にします】	ホールや玄関にホームの理念を掲示することで、職員間で理念の共有を図っている。理念に基づいて、一対一で個別に外出したり、押し付けにならないように利用者一人ひとりの役割を見つけたり、職員の都合を優先せず、ゆっくり共に過ごすことが実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との付き合いを大切に、近所の商店から買い物をしたり、理容室美容室を利用している。また、隣接している保育園の園児との交流も大切にしている。	広報誌を作成し、地域へ回覧している。地域の方から事業所の周りの草刈をしてもらったり、新年会など年数回地域の親睦会に呼ばれることもあり、お互いの顔がわかる交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域資源(商店、理美容室)を利用する事で理解と支援は得られているが、活かされて居ない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成員から意見や要望を頂き、今後のサービスの質の向上に活かしている。外部評価の結果や内容の説明を行っている。	会議は併設の小規模多機能施設と合同で開催されており、家族代表と地域包括支援センターの職員、事業所誘致の際関係のあった地域の方などの参加を得ている。事業所は元々小学校の跡地に設立されたが、当初からある楓の古木が危険であることから、伐採や跡地の利用について市と協議してはどうかという提案があるなど、一方的な報告だけに留まらない意見交換が行われている。	会議で地域の避難所について話し合われたことが一部の家族にしか周知されていなかった。事業所の新たな決まり事や、運営状況をより広く知っていただくためにも、会議録を家族に送付したり、玄関に設置する等、誰でも見られるようにすることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村(介護保険係)には利用状況や活動報告を行い連携を密に行っている。地域包括支援センターに相談しアドバイスを頂いたり、介護相談員の定期的な来訪での意見をケアに取り入れている。	事業所の運営状況は、運営推進会議で胎内市直営の地域包括支援センターの職員に伝えている。市の担当者とは、認知症の症状が進行した利用者の対応など、個別の事例について相談できる関係が築かれている。また、介護相談員を毎月受入れ、居室内の清潔保持等普段気づかないようなアドバイスをもらうなど、サービスの向上に役立てている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体抑制に関する施設内研修及び外部研修に参加し、ケアを行なう際に、抑制になっていないかを常に考えている。	見守りの手薄な朝方に建物外に出てしまわれる利用者がいたため、エレベーターは夜間のみ使用制限を設けたが、日中は自由に使用できる。管理者や職員は身体拘束を行わないケアの実践に努めており、言葉による拘束にも注意を払っている。しかし、身体拘束に関連した研修等が定期的に行われていない。	身体拘束のないケアについてマニュアルを整備するとともに、マニュアルに基づいて定期的に研修を行う機会を持ち、全職員が現状の生活場面での対応を振り返り、気づきを得られるような場が持たれることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する施設内研修及び外部研修に参加し、虐待防止への意識を高め入居者の身体の傷は常に確認し気に止めるようにしている。	管理者は、介護に関して職員が不安に思う点についてはその都度話し合いを行う等して、職員のストレスが不適切なケアにつながらないようにしている。また、地域包括支援センター主催の研修会に職員が参加し、報告書の回覧が行われている。しかし、研修に行かなかった職員への報告や、研修を受けて現場を振り返る等の機会は持たれていない。	研修報告書の回覧だけではなく、職員会議などを活用し伝達講習などを行うことで、より高齢者虐待への理解が深まるのではないかと、職員の理解を深め、実践で活かせる知識の習得につなげてほしい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業と成年後見制度については一部の職員のみが研修に参加しており、内部研修等は行なっておらず今後、全職員が知識の共有が出来るようにして行かなければならない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームに対し疑問や不安がある場合には十分に話し合い、納得して頂いてから契約・解除としている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画見直しの際に家族に意見等を伺うように心掛けており、運営推進会議には家族代表も参加されており意見を聞く事が出来る。玄関には、意見箱が設置してある。	どの家族も少なくとも月1回以上の面会がある。利用者だけでなく、家族に対しても、管理者を中心に職員が親身な対応をすることで、意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。また、年に一度全家族を新年会に招いたり、意見箱を設置する等、意見を吸い上げる工夫が行われている。	家族の意見はサービス向上の宝である。面会時の会話の中で、気付かなかったり、見落としている場合もあり得るので、意見をきちんと受け止め、ホームとして改善するための体制作りが望まれる。相談・苦情等に対応するマニュアルは、何が必要かを職員間で検討し整備してみてはどうか。また、苦情受付窓口について継続的に周知する取り組みも期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なう職員会議・運営会議で職員からの意見を報告し話し合い運営に反映させている。	管理者の「まずはやってみよう」の考えの下、事業所内の職員意識を統一するためにTシャツを作成したり、利用者が過去を回想できるように、パケツでの稲作りに取り組んだり、日常業務、職員会議、委員会活動の中で職員から提案された様々なアイデアが実践されている。	会議で職員の意見について検討しているが、記録として確認はできなかった。出された意見と、対応した経過を計画として記録に残すことで、振り返りや評価がしやすくなると思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や勤務状況を把握しており、研修への参加を促す等、向上心を持てるよう働きかけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加は職員にあった研修に計画を立て全員が参加出来る様にしている。外部研修に関しては、案内が来た時点で検討し参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	胎内市のグループホーム職員と交流する機会を設け情報交換やネットワーク作りに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話す機会を設け、何でも言いやすい関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思っている事をや困っている事を良く聴き受け止め、解消出来る様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人・家族の意向や、その時の状態の確認をしたうえ、必要としているサービスを検討している。入居者本位の意向より家族の介護負担軽減が優先してしまわないように本人が安心して利用出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている「共に過ごし」を常に意識しており、家族の様にお互い支えあう関係を築いている。入居者より調理・洗濯・畑等を学ぶ機会を増やし、尊敬する気持ちを表している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えて行く同じ立場として共感出来る関係作りが出来ていると思う。	家族の面会時などには本人の生活状況等を伝えて情報交換をして、本人が喜ぶことなど支援のヒントを得よう努めている。職員は家族でなければできない支援があることを理解し、家族には無理のない範囲で協力をお願いし、共に支えていく関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の方が来られた時には、またいつでも来て頂けるよう声を掛けている。また、ドライブ等外出では、自宅近くの馴染みの場所へ行くように心掛けている。	独自のアセスメント用紙を活用し、本人が大切にしてきた馴染みの人や場所を把握している。同市内の他のグループホームと年1回交流会をしており、元々知り合いだった人と会う機会もある。また、自宅にミョウガを採りに行ったり、年中行事として自宅へ帰ることなども働きかけており、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを気に掛け心配されたりと支え合っている。生活の中で協力しうまく力を発揮出来ている様に見受けられる。食事の席は、入居者の関係を考慮しトラブルが無いように工夫している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談に乗りますので立ち寄ってくれる様家族に話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談時から、その方の暮らし方や今後の生活に対する意向の聴き取りを行い、把握に努めている。	利用者職員が一对一でドライブに出かけるなどリラックスした場面の中で、普段は言えない事や、何気ない会話を拾い上げて、暮らし方のヒントにしている。把握が困難な場合は本人の反応や表情から汲み取るようにしており、ミーティングで気づいたことを随時話し合っている。職員では聴くことのできない発言も、市の介護相談員を活用して把握に努めている。	日々の介護記録やモニタリングなどの記録において、サービス実施に対しての本人の表情、様子の記載がなされていない。本人の表情や言動は、意向に沿ったサービスが実施できているかどうかを知るための重要な情報となる。本人の思いに近づき、より良い生活を支えるために、記録の充実を期待したい。
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴や環境は家族からの情報や日常生活での会話の中から情報を得て、ケアに活かしている。	入居の際、独自のアセスメントシートを用いて家族に聞き取りを行ったり、面会の際に家族に聞いた、日々の関わりの中で本人に聞くなどして、生活歴や細かな生活習慣の把握に努めている。情報を活かして、調理作業の提供や、外出支援などにつなげている。	情報の把握はなされているが、記録としての蓄積が十分ではない。本人らしく生きることを支えるケアのヒントとして活用しやすいよう、随時知りえた情報を追記するなどして集積・整理することが期待される。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活する様子や会話、表情から総合的に現状を把握できるように関わっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やアセスメント、家族の意見や意向を元にカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。	毎月モニタリングを、半年毎に介護計画の見直しを行っているが、状態に変化があった時等は臨機応変に介護計画を見直している。利用者の個別担当職員と計画作成担当者がアセスメントを行い、他の職員のアイデアを取り入れた上で原案を作成し、話し合いを行っている。しかし、介護計画のための話し合いに本人や家族の参加が得られていない。	事業所理念に基づき本人の現状にあった介護計画となるためには、関わっている多くの関係者のアイデアを活かすことが不可欠である。本人、家族を含めた介護計画のための話し合いを行い、より具体的で個別的な、利用者本位の介護計画が作成されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間の様子を色別で分かりやすく記入している。介護計画を実施した様子や日々の様子が記録されており、計画の見直しに活かされている。生活についての改善点についても日々話し合い、記録に残している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な要望に応じて、急な外出や隣接施設での催し物への参加に柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方が定期的に来訪され、入居者の楽しみに繋がっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の信頼しているかかりつけ医を優先している。必要時には、医師に情報提供し、受診時に家族と同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、往診して頂いている医師には細かく情報を提供し、アドバイスを受けている。	本人、家族の意向を尊重した医療機関から適切な医療が受けられる体制になっている。1階の小規模多機能施設と兼任の看護師があり、体調に変化があった際はすぐに相談することができる。定期受診には家族の付添いを基本としており、必要時は職員も同行し健康観察記録等を情報提供するなど、主治医との連携を図っている。また、歯科医の往診も受けられる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日1時間看護職員がバイタルチェックや健康管理等行っている。必要時24時間電話での対応指示も可能。隣接している、中条愛広苑看護師の協力も得られる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会に行く回数を増やし安心して頂けるよう対応している。また、病院関係者から情報を頂き、退院の時期を検討している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成している。重度化や終末期になった場合は、家族と話し合い、医師、看護師とも相談、助言頂いている。また、指針のもと、支援に取り組んでいる。	併設施設の入浴設備が重度化にも対応できるため、終末期まで利用者と関わって行くことが可能である。最終的には病院で亡くなられたが、直前まで関わったケースもある。入居契約時、「重度化の指針」を本人・家族に説明しているが、その後の説明は必要になった時のみ行っており、折に触れての説明は行っていない。	本人だけでなく、家族にとっても終末期の過ごし方は大きな不安がある。最期まで安心した生活を送るために、入居時以降も介護計画作成のための話し合いの際など折に触れて、できるだけ早い時期から説明の機会を持つことが望まれる。法人としての方針も踏まえて今後の対応を明確にし、終末期のイメージを共有できるようさらなる取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による施設内研修及び消防署の指導にて救急法の講習を定期的実施している。	緊急時対応のマニュアルが整備されている。全職員が消防署へ出向いて心肺蘇生やAEDを使用した救急救命の訓練を受けたり、急変時や感染症発生時の対応についても研修を行っている。同敷地内の老人保健施設の看護師と24時間連絡が取れる体制であり、気になったことはその都度相談をしている。	誤飲、意識低下、転倒骨折、嘔吐等、日常的に起こりうる事態への初期対応・応急手当については、特に職員の手薄な夜間なども不安なく対応できるよう、実践力を高めるための継続的な取り組みが望まれる。看護師から定期的に実技指導を受ける等、急変や事故発生時の備えをより一層進めてほしい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練を年2回、自主避難訓練を年4回行っており隣接施設中条愛広苑の協力を得ているが、地域の協力は得られて居ない。	併設の施設全体で年2回の避難訓練を行うほか、事業所独自に夜間の火災を想定した避難訓練を年2回行っている。その他、抜き打ちの緊急連絡網の訓練が実施されている。備蓄については、東日本地震を教訓に、委員会での職員のアイデアを取り入れて内容の充実を図った。地域との協力・連携体制構築には至っていない。	消防署から地震を想定した訓練が必要であるとアドバイスを得たが、火災以外の訓練は現在のところ未実施であるので今後の取り組みを期待したい。地域との連携も含めて、より充実した防災体制の確立に取り組むことが望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や誇りを損ねる事が無い様に、言葉使いや対応に気を配っている。	職員は、笑顔で穏やかに利用者に接するよう努めている。また、排泄支援の場面などは本人の了解を得ながら、誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。不適切な言葉かけについては、職員会議の際や、日々管理者によるさりげない指導が行われている。	今後は、認知症ケアや尊厳保持についてマニュアルを整備して、勉強会を行ったりケアの振り返りを行うなど、ケアサービスの質を向上させるためのさらなる仕組み作りを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の理解力に応じて分かりやすい言葉で説明し、選択したり、自己決定出来るよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れは作っているが、入居者の生活リズムを尊重している。業務内容は入居者の生活のペースを考え臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で、近所の理美容室に出向いている。ご家族が、散髪される方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嚥下機能や咀嚼機能を考慮して調理している。昼食時のみ職員も一緒に食事をし、見守りの必要な方の近くに着くようにしている。調理作業から茶碗拭きを一緒に行なっている。	食事作りや後片付けは、利用者一人ひとりの得意なことや能力を見極めて利用者それぞれが主体となれるよう取り組んでおり、作業中は利用者の笑顔が見て取れた。地域の「ふれあい市場」から旬の野菜を届けてもらったり、月に一回外食に行ったり、畑で野菜を育てるなど、食に関する意欲を高める支援を行っている。おいしく食べられることで、食事量が増えた方が多い。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ食べる量や盛り付けを工夫している。栄養を取りにくい状態にある方には、医師に相談し高カロリー飲料を処方して頂いている。また、ポットに温かいお茶を用意いつでも飲めるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関の歯科医から口腔内ケアのアドバイスを貰っている。歯磨きと口臭予防・殺菌を目的とした緑茶うがいを毎食後行っており、歯磨きが十分でない方には介助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ誘導し、汚染を減らすように努めている。失禁のある方に対して毎朝陰部洗浄を行い、清潔保持に取り組んでいる。	排泄パターンを把握することで、利用者一人ひとりのサインや習慣に気づけるようになり、それらを職員間で共有して支援している。失敗した場合でも他者に気付かれないようにさりげない対応を心がけている。現在紙パンツを使用する方は半数ほどであるが、職員の支援により紙パンツから布パンツへの切り替えに成功し、本人の喜びにつながったという事例もあった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時や予防として、普段から水分摂取を心がけ、便秘に効果のあるプーアル茶等も提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の能力に合わせて安全に入浴出来るよう支援している。ある程度の事は決めているが、希望があれば入浴したい時に入浴できる。併設事業所も浴室を利用する為、午後のみ利用となっているが、ゆったり入れる様配慮している。季節によって、ゆず湯や菖蒲湯等行なっている。	「一番風呂が良い」など、本人の習慣やその日の気分を大切に、頻度や時間など出来る限り希望に沿う入浴が行えるよう配慮している。入浴を好まれない方へは、職員がその理由を把握しており、無理強いしない対応をしている。足湯に行ったり、入浴剤、季節にちなんだ変わり湯をしたりと入浴を楽しむ工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間が短い時には昼寝を促し、休息出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の現病や内服薬の効能を把握しており、飲み忘れや間違いの無いようにセットし記録している。薬が変更になった場合は特に注意し状態観察を行い、担当医に報告している。新たな薬が処方された場合、看護師より薬の効果や副作用について指導を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力と生活歴を活かし、調理作業や掃除、洗濯たたみ等を手伝ってもらい、役割として頂いている。ドライブや買い物、外食等で外出する機会を増やし、気晴らしの支援を行なっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、買い物やドライブに出掛けている。また、年に1回ではあるが、個別外出レクを取り入れ入居者一人ひとりの行きたい所へ職員と二人で一日出かける機会を設けている。	事業所は建物の2階部分に位置しているため気軽に外に出れる環境ではないことから、事業所内のみで1日を過ごす弊害を職員は良く理解しており、天気や気象条件と相談しながら、可能な限りの外出を心がけている。およそ週2回、食材の一部を利用者と共に買出しに出かけており、それ以外でも買物の希望があれば随時外出している。年1回、利用者の意向を元に職員と2人で1日外出する試みもある。また、地域の他グループホームとの交流会も定期的に行われており、利用者も楽しみながら参加している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは、理解しているが、個人管理が難しい入居者がほとんどの為、基本的にはホーム側で管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方からの電話を受け取り、会話する事はあるが、入居者側より電話を掛けたり手紙を書く事は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感のある物を飾ったり、トイレには、犬や猫の写真を貼り居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングは採光が良く適度な広さで、畳で過ごせるスペースもある。また、季節の花を飾ったり、行事の写真を貼るなど、落ち着いて過ごせる親しみやすい雰囲気づくりをしている。職員の動きはゆったりとしており、気になる騒々しさもない。	壁にいくつか写真や広報誌が掲示されていたが、家族だけでなく、利用者も見て楽しむものであるため、利用者の目線に合わせた掲示位置となるよう見直しを期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、皆で座れるようにソファを設置し、思い思いに過ごせるようにしている。仲の良い方向士が居室で談笑できるよう、椅子を用意する事もある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具は使い慣れた物を持って来て頂き、なるべく自宅の配置と同様にし居心地良く過ごせる工夫をしている。	壁は部屋ごとに色の違う和風の温かみのある素材で、天井も適度な高さで圧迫感がない。全室フローリングだが畳を敷くこともできる。ベット等の寝具を自宅と同じように配置したり、使い慣れた布団を持ち込んでもらったり、寂しくならないように家族との写真を貼るなど、利用者が安心して過ごせるよう細かな配慮をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室及びトイレ、浴室とそれぞれ別ののれんが掛けてあり、混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない